



# いちまいのおさら

2015年1月1日発行 Vol.8



## 足下を振り返る ~ 新しい選択肢を目指して ~

子どもの頃を思い出してみよう。おじいさんが自分に言ったことを覚えているだろうか？私たちは先人達が途切れることなく伝えてきた、“生きのびる知恵”というバトンを引き継ぐ役割がある。わずか数世紀の歴史しかないハイ・テクノロジーでは太刀打ちできない、“自給自足・持続可能に生きる術”、そんな知恵が集積した結晶、それが“山村の暮らし”そのものである。しかし、高齢化・過疎化で人が減り、また1つと家が空き、集落自体の消滅の危機に瀕している。私たちにはその中から必要なものを選びとり、継承しなければならない責務がある。

社会の現状や行く末から疑問を持って行動したとしても、本当に目指したい理想の未来はうまれない。根も葉もないところから、未来だけを切り取って作ることが出来ない。今を見て、過去を探り、自分の足下に耳を澄ますことを同時に行うことで、新しい選択肢が、確かな道筋が見えてくる。

もう私たちは十分に学び、ネットワークも築いている。これからは、人から教わった学びを、自分たちの場所で、自分たちなりに、形にしていく、実践していく段階だ。反対するだけでは何も変わらない。自分の生業に新しい価値をつなぎながら、みんなと共に「見える形」で、現代社会に“新しい選択肢”を提案していこう。“たんぼり村まつり”は私にとっての新しい選択肢の提案でした。

私たちは自分たちでひっそりやっぺいこう。

大地と、川と、山さえあれば、どこでだって生きていくことが出来るのだから。

Kouta 家の家族は4人になりました。世の中も変化するけど、家族も変われば、仕事も変わります。

今年はカフェを始めます。より多くの人とつながろう。私の暮らしを丸ごと感じてもらえる場所作りです。

みんなとよい年を作れますように・・・元旦

# 「たんぼり村まつり」報告 + 計画

自分の暮らしの中で全てを自給できないなら、つながってお互いに助けあえばいい。ここ数年で様々なジャンルで活動する若い実践者が増えたこと、SNSなどでネットワークが構築されたこと、原発事故を大きなきっかけに、現代社会の在り方に疑問を持ち、新しい未来の形をみんなが模索し始めたこと。自分の暮らしと、つながりと、社会的な変化を受けて、“自給自足な持続可能な暮らし”をテーマにした泊まり込みのイベントをしたい！と考えるようになりました。

鳥取の仲間達と実行委員会を形成し、地元メンバーも加わりながら、地元の協力も得て佐治町のたんぼり荘での開催が決まりました。地元の方から“いわな(岩魚)”のことを佐治町では“たんぼり”と呼び、「岩魚は岩を掘ってまで自分の住み家を作る魚」だと教えてもらいました。理想の暮らしとコミュニティを作ろう！という私たちの想いと重なるように“たんぼり村まつり”という名前に決まりました。

自家発電による電気は自給自足、ガスを使わずに薪や炭、ゴミ箱は設置しない...そんな宿泊型のイベントは県外にもありますが、地元を巻き込んでできているところは少ない。私は“なんでこの場所で行うのか?”という必然性を模索しながら、地元の人から「なんかやっとするわ」と言われるのではなく、私たち“よそもの”と、地元(住民・行政・企業)がそれぞれ持っているもの(ネットワーク・意識・技術など)と課題(経験不足・限界集落)を共有し、きちんとお互いにメリットがあって、未来に向けて継続して協力していけるような関係を目指しました。

夏前から準備して、おまつり、片づけ、振り返り...と、丸ごと体感して、どうだったか...それは言葉にならない。まつりの空気を肌で感じた方にしか伝わらないだろう。コンセプト、出店者、会場の雰囲気、村のルールなど、イベントはきちんと一本筋が通っていて、少しだけ地元の方も加わって、一緒に未来を語り合える。夜は薪で一緒にご飯を作って、火を囲む。この仲間達と共同で暮らし、コミュニティを作れたらどんなに幸せだろうか...と心から思わせる、あたたかい3日間でした。

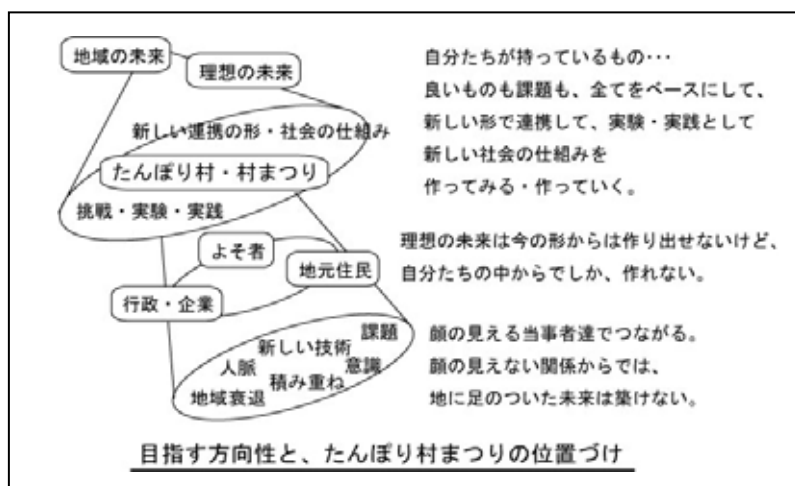
まつりを終えるとみんなはそれぞれの自分の場所へと帰っていきましたが、離れても「想いを共有できる仲間達がこんなにいる」と、心がつながっている実感があり、前へ向いて進んでいく元気が出ます。

出店者や参加者の感想、会場の雰囲気を下記のHPに掲載しておりますのでご覧ください。

**たんぼり村ホームページ** <http://tottoriidoumura.kakurezato.com/>

## 2015年 たんぼり村と村まつり

たんぼり村まつりを振り返って、いろいろなことがあったが、「やれちゃった...!」という確かな手応えもあった。タイミングや出会い、スタッフのおかげで、こういう形で開催することができました、正直どこでも開催できるものではないと思いますが、こうして“今年はどうしようか?”と想いと夢を膨らませられる事に感謝しながら、今年の“たんぼり村と村まつり”を描いてみました。具体的な日程や内容については、上記のHPに更新していきます。



### ・たんぼり村春まつり(4月19・20日予定) 秋まつり(10月上旬予定)の開催。

- ・佐治町を中心とした地元の人達を巻き込める仕組み作り
- ・365日オープン“たんぼり村 net (HP)”を開村、村民によるリアルな情報発信・情報共有の場作り
- ・誰かに依存するのではなく、みんなで支えあう形を目指して、個々が自給力をみがくワークキャンプの開催
- ・“竹で編んだ小屋”に土と漆喰を仕上げ、太陽光パネルを設置するなど、たんぼり村に常設のハード設備作り
- ・佐治町の田畑を共同で耕し、薪や炭を作って、たんぼり村まつりで使う食とエネルギーを自給
- ・たんぼり村のある場所を知る。中集落や佐治町を知る・人と会うツアーを通じて、共同できることを模索



谷上村長挨拶



鏡割りならぬ、薪割り



村長による中集落ツアー



語り部による佐治谷話



自生するカンボクを煮つめた山の万能薬、餅つき、地域と未来を語るトーク、いつの間にか薪がたさされている



電気は自家発電



自然エネルギーライブ



薪割り



生ゴミも鶏のご飯



薪で料理を作って火を囲んで食べる、河原に設置した五右衛門風呂、竹を編んだ小屋、しゃくなげの記念植樹



薪とピースオープンで焼くクッキー、出店者も薪で料理、話が弾む炭火焙煎珈琲、作って販売・子ども屋台村



集った人たちと共に、ここにしかない、自分たちの目指した暮らしのある、村があった。

薪が少なくなれば割ってある。火が弱くなったと思えば、薪がくべてある。生ゴミが出れば、鶏のご飯に。自然に誰かが動いて、やっている。便利なスイッチは無いかわりに、**仕事があって、役割があり、空間をみんなで支えている。**村でのエネルギーは限りがある。太陽光パネルで発電・蓄電した電気と、薪と炭で料理をしている。使えば目に見えて減っていく。薪は作り出せるかもしれないけど、ガスや電気は限りがある。そんな**当たり前**に気づく。薪料理は早く・たくさん・正確にはできない。それをイライラするのではなく認める・受け入れる。気持ちに余裕がうまれれば、火を中心にした自然のリズムと流れが心地よくなってくる。

**集落ツアーや佐治谷話の中からは、この土地に根付いた生きた歴史と知恵の深さを垣間見る。**その中には、これからの未来において必要なヒントがたくさん隠されている。

**暮らしながら遊び、遊びながら学ぶ。暮らしの中で、子どもは大人を見て、やってみて、学び、育っていく**

昔はそれが自然に、当たり前でできていた。家族で出来なくても、コミュニティで支えられていた

**現代のずたずたに分断された中から、未来につなげたいものを集めたら村ができた**

地に足の着いた持続可能な未来は、山奥とその中の暮らしの中にこそある

# 「Kouta 発電所」報告

## Kouta 発電所の概要

### 1. メインシステム (2014年5月18日設置。総費用約70万円)

- ・発電量：1328W (シャープ製太陽光パネル、単結晶166W×8枚)
- ・蓄電量：800AH (再生ディープサイクルバッテリー HC-100×8)
- ・コントローラー：SUNSTAR SS-40CX  
(MPPT方式、12/24/36/48Vシステム対応、40A、  
最高入力電圧192V、最高発電量 48V×40A=1920W)
- ・インバーター：トランス式 正弦波、48V・連続1500W出力



### 2. サブシステム (2014年10月設置。余りものを流用)

- ・発電量：380W (中国製太陽光パネル、単結晶190W×2枚)
- ・蓄電量：240AH (パナソニック製再生ディープサイクルバッテリー 60AH×4)
- ・コントローラー：中国製PWM方式、12V/24V、20A
- ・インバーター：未来舎製 疑似正弦波、12V・連続1500W出力



### 3. 電気の見える化と自然エネルギーの使い方

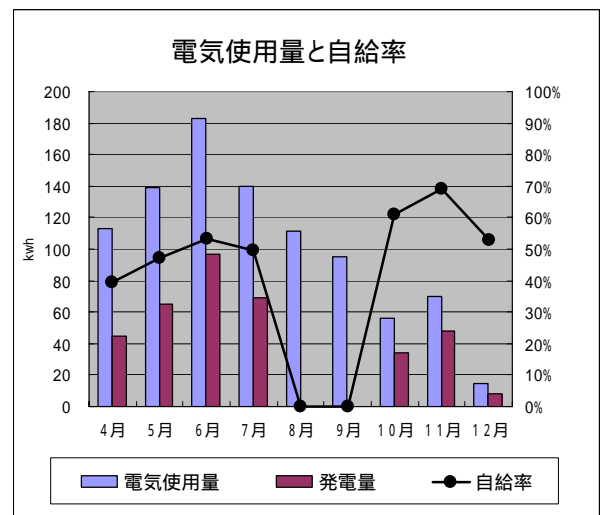
- ・クランプ式無線電力計 (CUSTOM製 EC-10RF)  
電力会社から買っている = 家全体で使っている電力量を表示する電力計。  
自然エネルギーで貯めた電気を使っていれば0W = オフ・グリッドになる。  
省エネ意識が高まる他、PCに接続して電気使用状態をグラフ化することが出来る。
- ・三路切換スイッチ  
家の電気を、電力会社と自然エネルギーで貯めた電気とを切り替えるスイッチ。



## Kouta家の電気使用状況

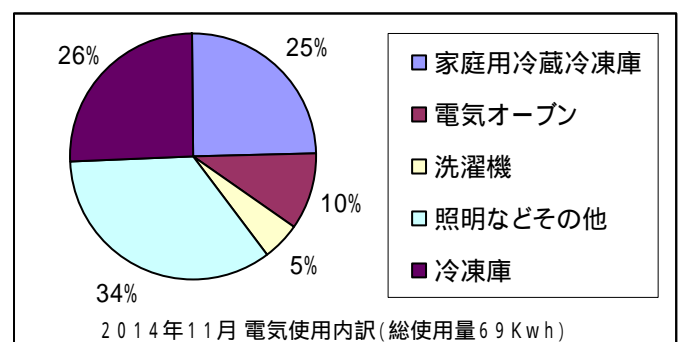
2014年は発電と同時に、省エネにも力を入れた。夏～秋に向けて冷凍冷蔵設備を減らし、タイマーで駆動時間を6～12時間に制御、電気使用量を半減させることに成功。電気自給率は50%を超えました。

右の「電気使用量と自給率」は、1年の電気使用状況の移り変わりを示していて、夏以降は省エネ効果が出て使用量がどんどん減っています。また、発電量は天気の良い夏に上昇しますが、8・9月はシステムを貸し出ししていたため0になっています。いくら発電しても電気を使えば、電気代もかかるし、自給率も上がりません。  
**電気は、自給率0%であっても、発電するよりも省エネする方が、全体の電気使用量を減らすという点では効果があります。**



次の「電気使用内訳」は、よく電気を使う家電毎にメーターをつけて、どの家電がどれくらい電気を使っているかの割合を示したものです。冷蔵設備が半分を占めており、**逆に言えば冷蔵設備を2台から1台にすれば、電気使用量は25%減らすことができます(その分自給率は上がる)**。このように、どの家電がどれだけ電気を使っているかを知ること、どこからどのように省エネすれば効果的なのかを知ることが出来ます。

2015年は省エネによる自給率の向上、そして電気の見える化によって電気に意識を持ってもらうことで、**みんなの電気使用量削減による、全体の使用量削減**を目指したい。



# 「さらにパワーアップ！ Kouta家の暮らし」計画

一通りのものが揃ってきたので、これまでやりたかったけどできなかった分野への挑戦と、今あるシステムをより分かりやすく伝えるための“見える化”を中心に、進めていきます。

## 暮らしの自給率の見える化

“電気の見える化”に加えて、水道（使用量）・ガス（カセットボンベ）・ガソリン（購入量）・米・粉（薄力・強力）・油・洗剤などの日用品をどれだけ使っているかを数字にして、データにしてみる。そして、節約と自給の対策を練っていく。いつか、自家製小麦や胡麻や菜種油を絞り、廃油の天ぷらカーにのれたらいいなあ。

## 暮らしの中で

### ドラム缶竹炭づくり

未利用の竹が多くあるので、竹炭を焼いてみる。竹炭は床下や竹炭壁を作って、古民家の快適化に使いたい。

### ドーム型ピザ窯づくり

カフェで「パンやピザの日」、そしてふみちゃんのお菓子を焼くためのドーム型のピザ窯を作ろう。

### 古民家の快適化（二重窓、壁と床の断熱、蚊の対策、キッチンまわりリフォーム）

結露とカビを無くし、薪の消費を減らすための断熱化。夏場は蚊が入らないような網戸を設置。

キッチンにあるフロアリングやクロスなど触ると冷たい素材は寒いので、リフォームして木質化する。

### 子どもの遊び場作り

ブランコ、ハンモック、滑り台、砂場、丸太椅子、水場など、子ども達の遊び場を作る。

### 夏場用野外かまどと温室テラス

冬は薪ストーブがあるのでガス自給率は100%だが、夏も薪が使えるように野外にかまどを作る。

かまどの屋根を作るついでに、縁側からテラスを出して、洗濯干しや子どもが遊べる温室を作ろう。

### 燻製窯、生ハム、ビール作り

生ハムはイベント出店時のテイクアウトに人気があった。仕事作りも兼ねて、付加価値の高いテイクアウト用の商品を開発する。いいのが出来たら手作りビールで乾杯

### 鶏のいのちの循環

鶏はいただくばかりなので、自分のところでも卵や雛から育てられるようになりたい。

### 食糧の自給。畑をがんばろう！

## イベント案内 ～カフェ作り～

以前暮らしていた漆喰と竹で編んだ家をリフォームして、カフェにしちゃおう

### 「カフェになる場所で、カフェをしてみる！」1月17・18日（土・日）

カフェになった場所はもちろん素敵だけど、その前はどんな感じだったのか？元の姿を知っていると、出来上がったカフェへの感動も一押し。カフェ設計やセルフビルドに興味がある人必見。宿泊もOKです。

### 「カフェをしたい人へ 飲食創業講座」2月7日（土）

天然食堂つきとおひさまのカフェオーナー、はるさんを招いて、お茶をしながら囲みましょう。

カフェってどんな感じ？建物は、仕事は、儲けは？どうしたらカフェが出来るのか、聞いてみましょう。

### 「カフェ作り」1月～3月頃

床・壁・天井仕上げ板貼り、間取り、椅子・テーブル作り、キッチン（モルタル・水道・防水壁など）随時ブログでも紹介しますが、やってみたい方も募集中です

イベントは巻末に記載してあるFB・ブログ・HPなどで随時お知らせします



# 「食べることを楽しむ」報告

雑貨屋さん、自宅、野外...いろいろな場所で、発電、ワンプレート、フルコース、直火料理、一緒に作る...など、いろいろなスタイルで、あちこちに出張してみんなと食べることを楽しみました。

鶏を飼うようになってからは、“いのちをいただく”は恒例になりましたが、私にとっても大切な時間です。動物として、食=いのちを生業とするものとして、“いのちをいただいている”という感覚に常に立ち返りたい。

## OneDayCafe

6月21日：BRUNWORKS（鳥取市）



## 出張料理人 Kouta

2月8日：古民家再生フォーラム（大山町）

3月8日：会計事務所（倉吉市）

3月22日：父還暦（北栄町）

5月29日：シナリー（北栄町）

7月20日：三村さん（湯梨浜町）

9月15日：小原さん（北栄町）



## Kouta家 見学会 + ランチ

2月5日：田中くん

3月23日：小原さん

6月8日：小原さん



## その他のイベント

1月11日：いのちをいただく パイボン畑

1月28日：サラミ・ホダ木作り Kouta 家

2月18日：味噌づくり Kouta 家

2月19日：生パスタづくり講習 空山

3月30日：いのちをいただく ポレポレ キッズ

11月26日：いのちをいただく 堂下さん

12月23日：いのちをいただく 空山



## イベント出店

（発電カフェ・生パスタ・生ハムなど出店）

3月21日：ハレマニバザール（岡山県）

4月19日：空山アースデー（鳥取市）

4月29日：アースデー岡山（岡山県）

5月4日：オールウェイズ（北栄町）

5月11日：ハレマニバザール（岡山県）

5月25日：Peaceful ヒッピーマーケット（広島県）

5月31日：クラフト船岡（八頭町）

8月22～23日：てのひらまつり（岡山県）

9月20日：麻まつり（智頭町）

10月12日：楽座楽市（鳥取市）

10月17日：わったい菜（鳥取市）

10月18日：オクトーバーフェスタ（倉吉市）

10月19日：関金文化祭（倉吉市）

11月1～3日：鏡野手づくり市（岡山県）

11月9日：トットリ式屋台楽宴プロジェクト（鳥取市）

11月24日：ハレマニバザール（岡山県）

11月30日：つなぐ市（湯梨浜町）



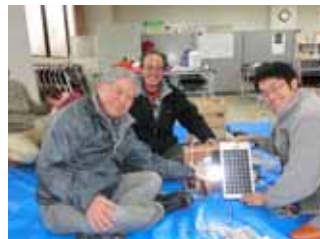
# 「暮らしを作る・楽しむ」報告

## 電気をつくる・学ぶ

電気を作るということは、電気を知ること。エネルギーと向き合うということです。

**小さな発電所（独立型太陽光システム）でも、自給率0から脱却できます。**元々電気を使わないKouta家が自給率を上げるよりも、みんなの省エネ・自給率を上げる方が社会全体としての省エネ効果は高いのです！今年もあちこちに、小さな発電所を作っていこう。電気は自給できる！

- 1月17日：自然エネルギー講座 Kouta 家
- 1月26日：小型独立型太陽光システム作り えねみら・とっとり
- 3月9日：環境と地域づくりを考える座談会にて講演 北栄町
- 5月18日：独立型太陽光システム設置 Kouta 家
- 6月28日：自然エネルギー講座 田中さん
- 7月13日：独立型太陽光システム作り 岸本さん
- 8月2日：独立型太陽光システム設置 片岡さん
- 8月11日：小型独立型太陽光システム作り Cocosrostore
- 8月17日：小型独立型太陽光システム作り Kouta 家



## 木の器づくり

木を倒し、輪切りして、回すと器が出来る。**暮らしで使うものを、身近な素材で、自らの手で作れる嬉しさ、喜び。**庭木を剪定すると“これで器を作ろう”とよだれがでます

1月24日：岸本さん Kouta 家 3月12・19日：空山

## 創業塾 ～好きなことを仕事にする！稼がない生き方～

好きなことを仕事にする方法はいろいろあるけど、一番大切なのは“いかに稼がなくてもよくするか”です。お金を使わなければ、そもそもお金を稼がなくてもいい。そうすれば時間も出来るし、好きなことでも仕事になるようになります。**みんなが好きなことを仕事にできれば、もっと社会が楽しくなる！**

5月21日：空山 6月18日：天然食堂つきとおひさま



## 暮らしを楽しむオープンキャンプ Kouta 家 7/23



Kouta 家で“食べること、暮らすことを楽しむ”をテーマにした、滞在型のイベントがしたいとずっと考えていましたが、“畑でランチを食べる”をテーマに、はるさんとコラボでようやく実現しました！

はるさんと一緒に作ったランチを畑でいただいて、Kouta 家の自給自足の暮らしを見て、三朝川で遊んで（すっぽんを発見！捕獲して夜ご飯へ）、そのまま温泉に入って、薪を焚いてご飯を作って、星空を散歩して、蚊帳の中で寝て、山の涼しい夏の朝をのんびりすごして、また川へ遊びに行って...大人にとっても楽しい夏休みになりました。**暮らしの中にこそ、食べることも、家のことも、エネルギーのことも、子どものことも、全てつまっています。**ジェットコースターのようなスリルはないけれど、毎日が楽しい。そんな暮らしがいい。

# 「仲間の家作り」報告

**2～6月(31日間):天然食堂つきとおひさま 店舗新築** キッチン6畳、客席9畳、テラス3畳



真冬の2月に工事は始まりました。住宅地なので踏み固め・整地は出来ているので、はるさんも工具を使いこなしながら「ここはこうしたいねー」と話しながら基礎石・土台・柱・ケタ・ハリ、屋根と一気に仕上げます。屋根が貼り終わったら、特等席でティータイム。



3月。屋根の次は内装へ。仮床・壁・天井と断熱材を入れながら、作業はどんどん進みます。途中はるさんこだわりの月と太陽の形をした窓や、もらってきた木製の素敵なガラス窓をみると、わくわくしてきます。はるさんの立つキッチンは特に力を入れました



4月。土壁に漆喰、椅子・テーブルと、ほぼ出来上がって来ました。最後の細々としたところが一番楽しいところでもあります。はるさんも土壁や漆喰をミキサーで練りながら、子ども達とビー玉や貝殻を埋め込んでいきます。そしていよいよプレオープンへ...





## はるさん より

ここにくるまで、いろ～んなことがありました。

そしてこの場所に落ち着き、もんのすごく居心地のよいつきとおひさまができあがり、毎日幸せにお客さまを迎えられるのも、本当にこうたくんなくしては成し得なかったことだと思っています。

お店の場所が決まらず唸っていた時も(笑)「家ですればいい」と言ってくれたのはこうたくん。お店をつくってくれたのも、色んなことをサクサク進めてくれたのも、こうたくんです。こうたくんの決断力、行動力、全体を見据える目とか、そういうとこ、本当にすごいと思います。そして廃材をいかして家やお店を建てたり、私みたいなど素人でもなんでもさせてくれたり、今回お店と一緒に創ることで「体験する」「体感する」ということの楽しさをたくさん学びました。なんでもやってみる。子どものように純粋にまずやってみる。そしたら何か動いたり、楽しかったり、そんなことをいつもこうたくんから学びます。

今回私が大工仕事のまねごとみたいなことして、道具が使えるようになったり、壁が塗れたり、椅子がつくれたりこれをまた次の人に伝えられる。(あ、私は伝えられないかもだけど(笑))もちろん半年お店をしてみて、手づくりならではの色々なハプニングは起きます(笑)でもそれも笑いネタとして、あ、でも時には反省や学びもしつつ、自分でなんとかやってみようという私の成長にも繋がってます(笑)

木も建てものもつくって終わりじゃない、循環する、繋がる大切さ、人だってそう。

こうたくんがお店づくりをしてきている期間、ふみちゃんやゆきちゃんも含め幸田家がわがやに泊まってくることが多く、私も子どもたちも、幸田家からたくさんの豊かさや楽しさを教えてもらいました。

自然に沿って暮らす知恵や体験、楽しくそれを実践していくこと、そしてみんな家族だというあったかい気持ち。そしてそんな気持ちが繋がって、つきとおひさまはあったかい人たちが集ってくれるお店になって、私自身、とっても居心地がよいのです。

お客さまからもそう言っただけることが多く、それはここが生まれる時から、いっぱい愛が込もってるからなんだな～と思います。こうたくん、本当にありがとう



### 天然食堂 つきとおひさま

鳥取県八頭郡八頭町福本 8-6

0858-73-0395 (小倉)

<http://blog.zige.jp/tennenn/kiji/729192.html>

営業日：日、月、火、木。11：00～17：00

都合により変更になることもあります

## Kouta より

はるさんの長年の夢だった天然食堂つきとおひさま。ここまでのいろいろな事があったと思います。だけど、それがベースになったからこそ、こうして形になったんだと感じます。Kouta はただ建物を造るお手伝いをしただけです。はるさんがいて、野菜やお米を作る人やお客さんがいて、はじめてこの場所は生き生きと輝きはじめる。想いも、食べるものも、身体も、場所も、きちんと繋がっている。この場所のはるさんの一部で、無理をしているものが何もない。それが心地いい。そんな場所づくりに関わったことを嬉しく思います。

本来“場所”とはそういうもので、いつしかカタログの中からお金で選ぶものになってしまった。いくらお金やいい材料を使っても、作り手と使い手の想いがこもっていなければ、ただの箱にしかならない。“場所”は、使い手と共に成長していくものです。はるさんと天然食堂つきとおひさまは、きっとそんな関係でいてくれるでしょう。

何はともあれ、はるさんも最後までよく大工仕事をやったな～と思う。はるさん家に泊まって、子ども達と一緒に遊んで、家族みたいで楽しかった～。はるさん、素敵な仕事をありがとうございました

## 8～12月(5日間): 石井さん家テラス張り替え、ウィンチ設置、薪・薪小屋づくり

材が腐って踏み抜き、危うく家主転落しかけたテラスの修理。やってみて、テラスというものは具合が悪い。屋根が無いから野ざらし、雪が積もれば水ざらし。2階だから耐久性と強度は必要。子どもがはい回るから釘やささくれのある廃材は使えない。...という訳で、リッチに2×3の防腐材で仕上げることに。踏み抜いたといっても、完全に腐っていたのは1部なので、元々あるテラスの上に、方向を変えて二重で貼ることに。平面だし、木材の長さ・厚さが揃っているので、楽ちん～

前々から、薪置き場がないこと、テラスに屋根がない事、薪をストーブのある2階まで上げることが大変だと思っていたので、引き続き思ったように施工させていただきました。まずは、テラスにひさしを伸ばし、薪置き場を作りました。薪ストーブの近くに薪置き場がないというのはどう考えても大変！

続いて、薪をコンテナに入れて引っ張り上げるウィンチを設置。ウィンチ自体重く、真下から引っ張り上げるので、真下に柱は置けないので、テラスの外に宙に浮かせての設置。大人1人は余裕なはずなので、いつか実験でエレベーターしてみようかな(笑)最後は“**薪ストーブ ウィンチ薪ストック**”の流れを完結すべく、テラスの真下を薪置き場に。テラスの下だけど雨は通過するので、屋根もつける。近所から集めた廃材を組みながら、1シーズンくらいストックできて、薪割りもできる薪置き場に。ついでに大量にある廃材の運搬・薪作りもいくらか手伝う。これで冬の薪事情は完璧

**これがあるといいね!こうなるといいね!を作って楽しい、使って嬉しい。**そんな仕事って素敵です。

## 9月7日: 八ニーさん家床張り替え



### 寒波なんて恐くない

今年の冬の我が家は最強。薪ストーブ生活13年目にしてはじめてちゃんとした薪置き場が設置!たくさんのいい感じの薪もすべて kouta くんが切ったり割ったりしてくれました!しかも、電動薪ベーターも!!薪をカゴに入れて、2階のベランダの薪置き場に直接運ぶ。階段をよっこら、運ばなくてもよいのですー すごく快適。便利。

私の老後を思い、kouta くん的设计施工。しかも、今年の薪はご近所さんが一軒解体したので、その廃材とみったんのいらなくなった薪でこの冬はなんとか、しのげそう。ありがたい。ありがたい。安心して冬を過ごせます みなさんに支えられて、石井家のあたたかい生活が守られます。心から、感謝しています

床が沈むという依頼を受けて、ゆきちゃんと軽トラで初めての2人旅。早速畳・床をはぐってみると、土台が何本か腐っていました。これだけ立派な家でも、土台は腐るんだなあ。新しく基礎を作って土台を作り、腐った板も作り直して出来上がり～

## 12月: ふみちゃん実家 薪ストーブ設置

雪は降らないけど、冬の寒さは三朝以上の津山。実家に帰るふみちゃんのためにも、薪ストーブを設置しました。道具がないなか、グラインダーと手ノコで12センチの壁に穴を開け、そこに煙突を通す。後はレンガを敷いて、煙突を固定しておしまい。予算も3万円かからない。薪ストーブは石油ストーブより暖まるし、料理も出来るし、冬場の洗濯物よく乾く。行く先々で薪ストーブがあるのは嬉しい。



# 1月～12月(41日間): 北条小屋 新築

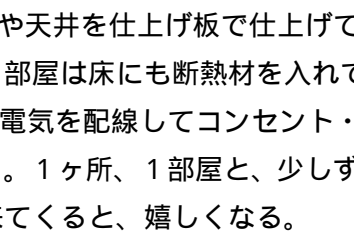
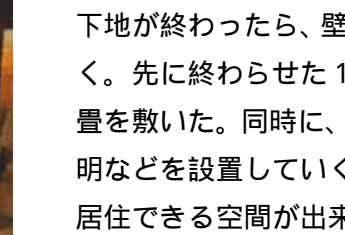
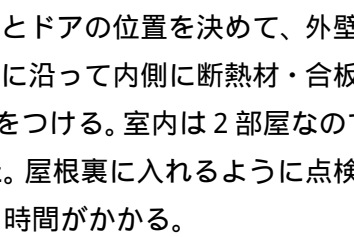
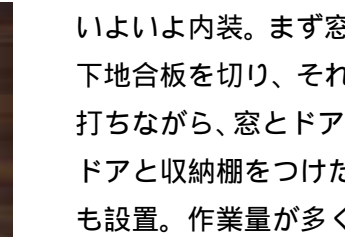
8畳2間、土間12畳。水道・電気・温水器・風呂新設



まずは建てる場所を決める。砂地なので車で踏み固め、水糸で水平と垂直を測る。コンクリは使わず、石を並べて土台を組んだら、柱を立て、梁、桁、棟・垂木と屋根まで一気に仕上げていく。全て廃材を使い、角のみでホゾを作りながら、1本ずつ手作業で組んでいく。



屋根に合板・防水シートを貼り、垂木の代わりにパレットをのせて、トタンで仕上げた。土間部分の基礎は、大きな梁が多くあまっていたので、梁を使って基礎を組む。大きな梁は切るのがもったいないけど、重たいので1人では梁としてあげられないので使いにくい。30m先の給水管を分岐させ、穴を掘ったついでに電気も通しながら、上水道を小屋に通す。元栓をつけて、風呂・キッチン・給湯器・洗い場と使い勝手を考えながら、分岐させていく。電気はしばらく仮設電気を使ったので、高くついた。



いよいよ内装。まず窓とドアの位置を決めて、外壁の下地合板を切り、それに沿って内側に断熱材・合板を打ちながら、窓とドアをつける。室内は2部屋なので、ドアと収納棚をつけた。屋根裏に入れるように点検口も設置。作業量が多く時間がかかる。

下地が終わったら、壁や天井を仕上げ板で仕上げている。先に終わらせた1部屋は床にも断熱材を入れて、畳を敷いた。同時に、電気を配線してコンセント・照明などを設置していく。1ヶ所、1部屋と、少しずつ居住できる空間が出来てくると、嬉しくなる。

雨の度に漏れた場所を見つけて、塞いでいく。土間部分には火の焚き口を設置。続きは来年に。

9割方すんだが、使い始めたらきっとまたいろいろニーズが出てくるだろう。家作りはいつまでも終わらない

# 「Kouta の家作り・場所作り」報告



2トントラックいっぱいの薪をいただきました。ナラはキノコの原木へ。細いものだけカットして、スペースがないため杉と一緒に丸太のまま山積み。雪があるとソリが使えるので、重たい薪の移動が楽ちんです。

春になると鶏が活発に動き回り始めます。ちょくちょく隣家に脱走するので柵を作りました。しかし、2～3羽はどこからか分からないけど、いつのまにか隣の家や駐車場に出没している...



冬の間、鶏舎の木壁を食い破ってイタチが入り込み、たくさんの鶏がやられてしまいました。小屋は「買わない・もらいもので作る」をモットーにしてきましたが、命にはかえられない。丈夫なステンレス網を約150m使い、壁は勿論、床・天井も頑丈に仕上げました。床は何も敷かない方が土と繋がって、鶏糞の発酵やかき出しには便利ですが、頑丈さを優先。かき出した鶏糞は野積みし、1年かけて堆肥化します。



天然食堂つきとおひさま工事も終盤に入り、温かくなってきたので、貯まっていた作業がはかどります。

温度センサーを組み込んだ雛の保温器（育雛器）を作って鶏の孵卵・育雛を始める 蓋がなくなったタッパーを利用して作った、ゆきちゃんのおまる 軽量化と作業性向上のため、寸法を測って使いやすいイベント出店用の折りたたみ机 3年寝かせた人糞・鶏糞を使った苗作り



屋根のついた荷物・薪置き場を増築 庭の草押さえと雨でぬかるむ通路を歩きやすくするため、ウッドチップを敷きつめる 温水器を屋根に設置して、キッチン・洗濯機・風呂・水遊びなどへ温水を配管。



庭の整備に力を入れました。

生ゴミ堆肥設備コンポスティアー 畑の増設 ブランコ設置 物置場に野菜ストッカー



Kouta家は谷間です。野菜の生育も悪く、湿気るので蚊が多く、子どもの遊び場としても具合が悪い。風通しと日当たりをよくするため、庭木の剪定と崖から屋敷に侵入しつつある竹も百本以上全て切り倒しました。



子どもの成長と居住性向上のため、キッチンに智頭産無垢材を貼り重ね、長く使ってきた台下業務用冷蔵庫を手放して無垢の銀杏板をテーブルにするなどキッチン改造中です。料理を作る場所であり、**薪ストーブで暖を取る場所であり、子どもが遊び、食卓と団らんの場所でもあるキッチンは、一番居心地にいい場所であって欲しい。**床の間にゆきちゃんのお部屋も作りました。冬を越すために作った薪の壁も壮観です。

## 導入して感動した“Koutaの選んだ最適な道具と技術たち” Ver.2014年

### 1. 薪割り斧 “Fiskars 7854 X25”

“私はストーブだ！in広島”で出会った“Lumberjacks”が持っていた斧。試割りさせてもらったら一割りで感動！10年間使ってきた和斧に何の疑問も湧かなかったけど、薪ストーブ先進地で研究され続けてきた斧は凄かった！軽く、短く、扱いやすく、柄も折れることないカーボン製で、本当に気持ちよく良く割れる。



### 2. マキタ電動工具 “電子丸ノコ 5732C、充電式インパクト TD133DRFX、スライド式丸ノコ LS0715FL”

大工仕事が増えたことと電動工具でケガをしたことから、電動工具を新しく揃えた。使っていた丸ノコは1980年製造。刃も新しく替えたので切れていたが、新しい電子マルノコは別物だった！軽くて音も静か。出刃包丁とカミソリくらい違う切れ味！ドリルもリチウム充電式にすると、電池のもちが格段に上がり、パワーも抜群で変速やLEDは使いやすい。最後はスライド式の丸ノコ。きちんと角度で切断できる他、手元を照らす蛍光灯や、切断部分へのレーザー目印など、良く切れて使い勝手がよい。15センチ位の丸太ならすばすば切れるので、剪定枝の薪作りにも重宝！これら全てマキタのプロユーズ。プロ用に作られたものは安全性・作業性・正確性...素晴らしい！古い道具を使い続けることも大事だけど、いいものはよかった！



### 3. アナログ炭酸精製機 “ミドボン”

やっぱり夏は炭酸が欲しい！でも毎日飲めば高いしゴミになる。そこでミドボン！単なる二酸化炭素ボンベだけど、部品を揃えれば電気もガスも使わず、ランニングコストも抜群(5円位/1L)でペットボトルの液体を炭酸化できるというもの。好きなときに好きなだけ酵素シロップソーダが飲めるようになりました。



### 4. SIMカード

山にも強いdocomoの電波を使って、低速だけど年間1万円を切る安さで、ネットを使い放題できるというもの。家で、移動先で、これ1枚あればどこでもネットが！

## ふみちゃんのページ

この暮らしを始めて約3年、やりたいこと、目指す暮らしは私にとってはまだまだ始まったばかりですが、去年1年は色々なことがありとても充実していた気がします。

まずおさんぽ会を始めたこと。「子どもを自然の中で遊ばせたい、本当の経験をさせてやりたい」と同じ思いのお母さん3人と、森のようちえん開設を目指して、鳥取中部の海あり山ありの豊かな自然の中でお散歩を楽しむ自主保育の会「木とねっこ」を立ち上げました。2月下旬から始めて週1回、最初は3家族でのんびりごはんまりでしたが、人が人をつなぎ、今では多いときには10家族ほどが集まり、子どもたちは自然の中でのびのびゆったり遊んだり、大人たちは子育てや暮らしの情報を共有したりしています。

この会を始めてみて、外で過ごしていると室内にいるときのように「ダメ」ということがほとんどないと感じます。また何だか今の世の中、「ごめんなさいは？」とか「おもちゃどうぞして」など、子どもの遊びに大人同士が顔色を伺いながら関わることが多い気がします。「ダメ、汚い、危ない」などの言葉を、本当に危険なことがない限り言わない、森のようちえん共通の「子どもを見守る」保育スタイルは、そういうことを含め大人も気にせず、また何より子どもが自分で考え失敗も経験しながら身につけていくので、子どもがのびのび、大人もゆったり過ごせる気がします。秋に智頭の森のようちえん「まるたんぼう」を見学させてもらいました。その日はあいにくの雨でしたが、子どもたちはいつもと変わらない様子で雨具を着込んで、森のおさんぽに出かけていきました。1日を通して森の中で流れる子どもたちのゆったりした時間に、何て穏やかなんだろう...と、見てい

る私も穏やかで幸せな気持ちになりました。私たちのおさんぽ会もそんな風に大人も子どもも、作られた物、時間、空間ではない本当の自然の中で、ゆったり穏やかに過ごせる場所にしていきたいと思います。そして自然や地域の人と関わりながら、何もなくても遊びや暮らしを工夫して生み出す経験や知識など生きる力を身につけていけたらと思います。興味のある方はぜひお問い合わせ、ご参加下さいね。

次に秋に父ちゃんが主催したイベント「たんぼり村まつり」に参加したこと。主催者の嫁でありながら準備段階では1度スタッフ会議に参加したくらいで、あとは時々話を聞くくらいでした。なのでこのおまつり、みんなが「楽しみにしているよ」と言ってくれる反面、正直私は一人で勝手に不安でいました。例えば今回のおまつりでは飲食出店者の方にガス、電気を使わずに薪ストーブや七輪などで料理をしてもらうようにしてい

ました。私も去年、家に大きな薪ストーブが入ってから始めた薪ストーブでの料理、ようやく一冬越えて慣れてきたかなと思うので、出店者の方も直火の扱いに慣れた人ばかりではない中で調理をしてお客さんに提供するというのは大変なことではないかと心配でした。また、こんな暮らしをしていながらアウトドアの経験はほとんどなく、秋になり寒くなった佐治で、子連れ妊婦が3日間も屋外イベントに参加できるのが、そちらの不安もありました。

そして迎えた当日、運悪く台風接近の雨予報、1日目は雨も少しく屋外ステージもできましたが、やっぱり市内に比べると寒く、2日目はぼちぼち雨、3日目に至っては台風直撃のしっかり雨でした。でもやってみると何とでもなるもんですね。出店者も薪ストーブや七輪を上手に使いこなし、むしろおしゃれに楽しんでいる。雨が降ってもお客さんは来て下さり、寒くなれば焚き火にあたり、急がないのんびりペースで、みんなが楽しんでいるようでした。1日目が終わるぎりぎりまで泊まろうか帰ろうかと悩んでいた私でしたが、出店が終わって残ったみんなが夕ご飯を作っている雰囲気があまりにも楽しそうだったので、私もゆきと泊まることにしました。焚き火を囲んでみんなでご飯、のんびりお喋りも穏やかな時間でした。そして最後は学生さんのファイヤーダンス。真っ暗な中に浮かぶいくつもの炎がぐるぐると回り、”ファイヤーダンス”という荒々しいイメージとは逆に、光と闇が幻想的な雰囲気を作っていました。膝の上で見ていたゆきも炎をじーっと見つめ、この雰囲気をどんな風を感じているんだろう、



こんな時間をゆきや、そして今日1日たくさんのステキな人と一緒に過ごせて幸せだなあとと思うと、一気に涙が出てきました。結局2、3日目共に参加して、受付をしながら私も一村民として楽しむことができました。たんぼり村まつりを通して私が改めて感じたことは、経験することが大切だなということ。始まる前に思っていた不安も、やってみると案外平気なんだと感じました。心配したり不安になったりするのは経験がないから。やったらその場で気づいたり、失敗すれば改善したり、ないならないなりに何とかしたり、そうして1つずつ経験するからこれは大丈夫、今度はこうしてみようと思えるんだ。

結局私には経験がなく、父ちゃんにもあれこれ「大丈夫？」と文句を言っていました。父ちゃんはそんな経験が積み重なっているから今回のようなイベントも主催できたんだと、改めて惚れ直し(?)ました。今回のおまつりでは日々の暮らしを丁寧に楽しむ人の姿や生き方を感じられたり、田舎や限界集落と呼ばれる場所が持つ魅力や課題点も見られたり、そして何より集まった村民、お客さんみんながあたたかい雰囲気を楽しめたのではないかと思います。私はうまく伝えられませんが、父ちゃんやスタッフ皆さんの頭の中には、このおまつりを含めこれから先の未来についてのイメージが大きく広がっていると思います。今後もまた面白くなるこのおまつりを楽しみに、そして未来について考えるきっかけに、ぜひたんぼり村まつりに参加してみてください。



そして日々の暮らしの中心、子育てについて。ゆきは12月6日で2歳になり、食欲も、そしてお喋りもパワーアップ。同じくらいの子と比べてよく喋ると言われることも多いですが、1日中あれやこれやお話をしたり覚えた歌を口ずさんでいます。私が台所仕事をする傍らで自分で遊びを見つけてじっくり遊びこめるようになったので、私もういぶん動きやすくなりました。ありがたいことに時間に追われない暮らし、ゆきのペースにじっくりつきあ



ってやれ、2歳前後のできるようになる事がどんどん増えるこの時期を、私も楽しみながら過ごせました。おさんぽ会でのゆきは意外と慎重派で、水溜りで大胆に遊ぶ友達を一步引いて見ている感じです。でもみんなと一緒にの外遊びは母子ともにいろんな刺激をもらい、自然に触れ、友達と関わり、みんなでのびのびの～んびりな時間を楽しんでいます。

そんなおさんぽ会に出産前日まで参加し迎えた12月3日、朝から「あれ？今日来ちゃう？」というかすかな痛みから始まり、お昼過ぎに病院に着いてから2時間後、本格的な痛みが来てからは約20分という超安産で、2696gの元気な男の子がやってきてくれました。名前は「幸田健一」。元気があれば何でもできる、健康第一の健一です。ゆきの時に苦戦したおっぱいも今回はよく出て、おかげで夜中起きても30分でおしめ替え、授乳、寝るが完了してしまう親孝行息子です。ありがたいことに一姫二太郎、いずれ父ちゃんの戦力になってくれるのか期待したいところです。

小さなライバルの出現でゆきは私にべったり甘えんぼうになりました。なかなか受け止めきれない現実を一生懸命我慢しているゆきの姿が切なくて、私もできるだけ今まで通りしっかり関わってやれるようにと思っています。でも健一の世話でどうしても両手がふさがる時に言ってしまうのが「ちょっと待ってね」という言葉。今ゆきが特に敏感になっていて「私が1番」を叶えてもらえないこのフレーズを、いかに私が使わずにゆきの気持ちを他に向けたり満足させられるか、私のスキルアップが求められるんだと思います。子育てをしながら自分を見つめ直し、日々学びをもらっている毎日です。でもやっぱりこうして子どもが私にたくさんの人や環境との出会いを作り、夫婦をつなげ、これからの活力をくれています。未熟な私を母にしてくれ、日々学ばせてもらっているこの毎日の幸せに感謝感謝です。



# ひびのくらし ~ 暮らしを楽しむ ~

## 冬

ホダ木作り、味噌づくり、雪遊び、猪解体



## 春

御幸行列、ちまき、竹の子、ひなまつり、お誕生日、山羊、水遊び、パン食い競争



## 夏

ひな、海、ゆきちゃんカー、プール、生ハム、カヌー、七輪、兵庫旅行



## 秋

ホットケーキ、ゆきちゃんトントン、台所で初ご飯、鶏ラーメン、夜なべ仕事、豆仕事、誕生日、滑り台





# お世話になった方々の言葉

## ベーター（鳥取市、大学生。ポニー牧場カウンセラー）

こんにちは。子どもと自然と楽しいことが大好きなベーターです。今年関わらせていただいた“たんぼり村まつり”では、描いた夢をカタチにしていく姿。その想いに集まり、本気で答えようとする姿。そんなカッコいい大人たちの姿を間近で感じ、『ここにも居たぞ！カッコいい大人達が』と、心の底から感動したのを覚えています。私も出会いへの感謝と一瞬一瞬のワクワクの積み重ねで、輝き続けていたいさあ、どんな未来が待っているのか！ワクワク～

## 牧田 育子さん（北栄町、木とねっこ）

4年前、自然の中でのびのびと子育てしたいという思いから森のおさんぽ会活動を始めたものの、なかなか中部での環境に馴染めず、1歩が踏み出せないでいました。そんな時に幸田君に出会い、「もっと自信を持ってやればいい」と若いこうたんに背中を押してもらったのを思い出します。それからいろいろありましたが、今ようやく、ふみちゃん、おせちと共に「とっとり中部あおぞら自主保育の会 木とねっこ」を始められることになりました。夢に1歩ずつ、近づいているのを実感しています。中部の豊かな自然の中で移りゆく季節を感じながら、子ども達がのびのびと遊ぶおさんぽ会です。のんびり自然に抱かれていて、親も心解きほぐされ、ゆったりと見守る余裕を大人に持たせてくれます。うちの子もよその子も、大人も子どもと一緒に関わりあって、お互いに育ちあう場所を目指しています。

また、地域の自然や季節に寄り添った暮らしのあり方をみんなで考え、実践していきます。子ども達には、暮らしを作る大人の背中を見て育ってほしいです。まずは大人の私達から、一緒に1歩進んでみませんか？こうたくんいつもありがとう。これからもよろしくね。

## 小山さん（岡山県、パイボン畑）2014年を振り返って

2013年に初めてこうたくんに鶏の捌き方を教わった。これは是非、子供達に「肉を食べるといことは、こういうことだという一連の作業を見せたり・命について考えてほしい」と思い、2014年にこうたくんに協力してもらって鶏の捌き方のワークショップを岡山の仲間や友達を誘って開催しました。たくさんの参加者のお礼の言葉や、昭和の初期ならだれもこんな企画には参加しただろうのに、多く方に参加していただき、子供に何を伝えていくのかをますます考えさせられました。2014年は午年でしたが、鶏に始まり鶏に終わった年になりました。

現代は価値観が多様化して、ともすれば命の重さや大切さを軽視しがちな傾向にあると思います。コンビニで何でも簡単にすませ、ネットの情報で必要なものは何でもすぐに手にいれられるお手軽な時代に、「生きていくために何が必要なのか」、「本当に大切にしなければいけないことは何か」ということを、次の世代を担っていく、子供達に伝えていくことは、こんな時代（原発だらけ）になってしまうまで、ぼーっと傍観して何も考えないで生きてきてしまった私たちおとなの最低限の義務だと思っています。

食べるということは生きていくために必要不可欠のものです。その本質を今の学校教育や教育関係の人々はどんな風に捉えているのでしょうか。本質を正しく伝え、繋がって紡がれていく次の子孫を正しい方向に導かなければ、自意識過剰で生態系全体のことを全く視野に入れないで大量生産、大量消費、処分できないようなゴミ（例えば核廃棄物など）ばかりを増やしていく金銭至上、資本主義の現代文明と人類はいとも簡単に崩壊と自滅するにまわっています。それを避けるために経済ではなく、価値の本質と命の大切さ、表面ではなく中身を考え、見抜くことのできる賢い人々がどんどん増えていくように、「いま、これがほしい、あれがほしいではなく、これを買うとどうなるのか、自分がお金を使うことでどこにお金が出ていき最終的にどうなるのか」、「高い、安いではなく、普遍的な価値とはどういうことなのか」ということがわかる建設的で賢明な子供たちが増えますように、幸田くんの活動にこれからもどんどん協力や協賛していきたいと思っています。

## 森田 さやか（南部町、シンガーソングライター）

2014年はコータシェフが我が家で誕生日のごちそうを作ってくれたり、幸田家で森と風のがっこうの吉成さんを囲んだり、美味しい時間を一緒にさせていただきました。贅沢だったな～。生ハムとか、魚の熟成とか、野菜たっぷりのトマトパスタとか、思い出しただけでもよだれが出ます。どこのキッチンでも無駄の無い俊敏な動きをするコータさんの背中がまぶしかったです（笑）

たんぼり村まつりでは、大好きな人達が集まって焚火を囲んだり、佐治のカッコいいおじさんが輝いていたり、子どもたちと石に絵を描いたりしてなんだか夢見心地のような暮らしを体験させてもらえて嬉しかったです。この時間は、私にとってはまだまだ非日常なのですが、ああいう暮らしも難なくできる大人になれたらなと思います。たとえこの先、日本の政治がどうなっても、あの暮らしを思い出しながら一步一步進めばとても豊かに誰もが暮らせるのだらうと思います。たんぼり村まつりへ向けたコータさんの情熱は沢山の人達に伝わただらうな。次回も楽しみです！それを支えていたふみさんゆきちゃん。終わりのふみさんの挨拶には泣かされたな。とても感動しました。

ご家族揃って「つきとおひさま」のライブやアートスタート舞台「もりさやのチリン コロコロブイッ!!」を見に来て下さり、私の様々な表現を知って下さっているのもとてもありがたかったです。新しい家族を迎え、更に進化するであろう2015年の幸田ファミリー、そして、「いちまいのおさら」。私も様々な事を学ばせてもらいながら、一緒にさせて頂きたいなと思います。是非皆さんも！

## 池田 りょうこさん（用瀬町、くらしのきほん）

コータ家とのつながりは「いのちをいただく」。鶏ってこんなに美しいのかと驚くと、卵を身ごもっており、その身の感触は今でも忘れられません。命に家族で向き合える貴重な時間でした。大事なことをきちんと大事にし、具体的に実践して共有していくコータ家。これからも学びを共にしていきたいです。2015年「くらしのきほん」では、子育ての中で見つけたオーガニックな暮らしを皆とシェアしながら、毎日が元気になる「しくみ」づくりに積極的に挑戦していきたいです。動きは小さいですが1つ1つの笑顔が次の希望をつくる気がします。

## Koutaのオーダーメイドな仕事

### カフェ “いちまいのおさら” オープン（5月予定・不定営業）

#### 自然エネルギーワークショップ ～自給率0からの脱却～

- ・ Kouta 家で実際使っているシステムの紹介（電気自給率約70%）
- ・ 小型の太陽光発電システムを使った出張講座
- ・ 製作注文があれば、電気のことを学びながら、一緒に組み立てます。用途によってサイズ、予算が変わります。

#### Kouta 家の循環型の暮らし方・ランチ付き見学会

パーマカルチャー、コンポストトイレ、自家発電、自然養鶏、薪ストーブ、山の暮らし、生ハム作り...いろいろな暮らしの知恵がぎゅっと詰まった Kouta 家見学ツアー。見て、聞いて、やってみて、楽しく、食べて。Kouta 家の暮らしとライフスタイルをまるごと楽しめます。4人以上、2000円/人(ランチ付き)でご予約下さい。

#### 出張料理

食材は勿論、お皿からまな板まで全て持参して自宅などに出向いて、料理を作ります。

基本イタリアンで、ピュウフェ形式（大皿取り分け）。野菜を中心に、熟成魚・肉や手打ち生パスタなどの珍しい料理を組み込みながら、少しずつたくさんの種類を食べていただくフルコース仕立て（スープ、前菜、生パスタ、デザートまで10種以上）です。お祝いや誕生日など、用途・予算などオーダーメイドできます。依頼があれば別途アルコールも準備できますが、ドリンクはご用意下さい。

“食べることをゆっくり楽しんで欲しい”と考えているので、食事の所用時間は2～3時間くらいになります。全て私が行いますのでお母さんはゆっくり食べていただける他、小さな子どもや高齢者など、出かけるのが困難な家庭のお祝いの席などから好評いただいております。ランチ8人以上(2000円/人)、ディナー6人以上(3000円/人)の完全予約制で、別途交通費若干頂きます。

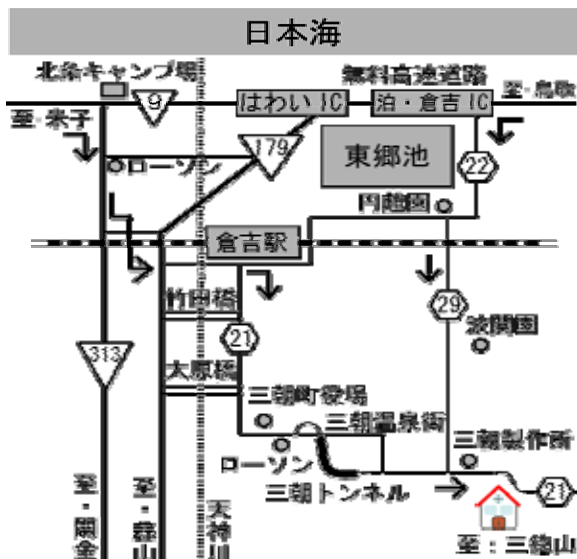
#### 家と暮らしの相談・施工

断熱化、薪ストーブ、キッチン、増築、リフォームなど「こういう暮らしがしたい」の相談・施工を行います。

#### その他

鶏のいのちをいただく、料理教室、味噌・麹・生ハム・サラミなどの加工食品づくり、創業塾～好きなことを仕事にする～、トーク、講演など各種行っております。

ご予約・お問い合わせは下記までご連絡下さい



### いちまいのおさら 代表：幸田 直人

〒682-0136 鳥取県東伯郡三朝町坂本 1608-3

TEL/mail: 090-7997-3321, kouta.naoto@gmail.com

ブログ: <http://blog.livedoor.jp/itimainoosara/>

ホームページ: <http://jizokutottori.dokkoisho.com/>

facebook: 幸田直人

たんぼり村: <http://tottoriidoumura.kakurezato.com/>

#### メンバーリスト会員も募集中!

希望者は上記のアドレスにご連絡ください